

テキサス 32年ぶりの「大寒波」特集

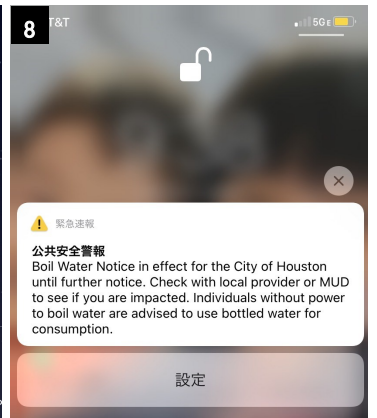
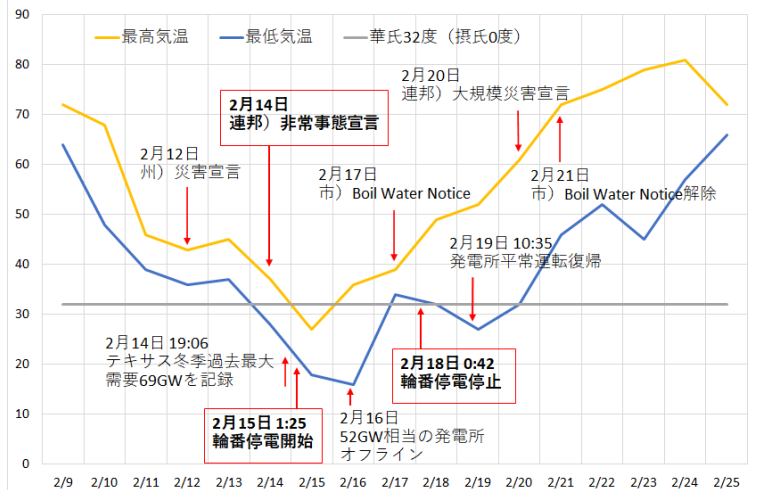
2月15日未明から19日にかけて、米南部及び中西部を記録的な大寒波が襲いました。最低気温はダラスで華氏1度(摂氏マイナス17度)、ヒューストンでも華氏15度(同マイナス9度)を記録し、テキサス全体で470万世帯が停電、140万人が断水被害に見舞われ、その経済損失は2017年のハリケーンHarveyの約1,250億ドル(約13.2兆円)を超える1,300億ドル規模と推計されています。商工会では会員企業の協力も得てこの被害復興の支援金としてヒューストン市とハリス郡によって設立されたThe Houston Harris County Winter Storm Relief Fundに\$25,000を寄付致しました。

2月25日度理事委員会にて会員企業従業員、事業の被害状況について情報交換を行うと共に個別アンケートを実施し、今後の参考として編集部で被害状況と体験談を取りまとめました。今回の大寒波では州全体の多くの住民が影響を受けたという点が、局地的な大規模被害をもたらしたHarveyと異なりました。よって知人・友人からのサポートを得づらい状況となり、個々人による事前の準備が非常に重要であったと言えます。

今回の停電被害は比較的冬場も温暖と言われるテキサス州全体を襲った寒波により、寒さ対策が不十分であった発電所が停止に追い込まれました。中でも州の電力需要の約半分を供給するはずのガス火力発電所への天然ガス供給が生産現場の停止、輸送パイプラインの凍結により滞ったことが長期に亘る大停電の原因とされています。発電所停止により電力供給量が大幅に制限される中で、寒波による暖房需要増加

から冬季過去最大となった需要を賄いきれず、テキサス州の電力網を運営するERCOT(電気信頼性評議会)がブラックアウト(広域大規模停電)を回避すべく輪番停電を実施しました。この輪番停電実施が遅れていればERCOTの送電網全域でブラックアウトとなっていた可能性も指摘されており、病院施設等が停電を阻止することができたのは不幸中の幸いと言えるのかもしれません。

ヒューストン最高・最低気温推移(華氏/2月9~25日)



1. 2月15日朝、ベランダからの雪景色 2. パイプ破裂による天井のしみ 3. 水害の後片づけ 4. 2月26日、枯れてしまった植物 5. 2月15日朝のKaty 6. 1人2点までに販売を限るも、パンが全て売り切れ 7. 午前2時、停電の中での寒さ 8. 突然鳴った、水道水の煮沸勧告アラート